

食道表在癌の発育進展に関して、貴重な症例を拝読させていただいた。症例を見る限り、ほとんどが0-II型の症例の経過観察であったが、林論文の、粘膜癌から進行癌まで8年4か月間の経過を追えた症例は圧巻である。食道癌の発育進展を考える際、その初期像は、座談会でも述べられているように、一様の展開を示すものでないことは明白である。われわれがまだ把握していない部分が大部分であろう。急速に増殖する症例に関しては2週間程度の短期間でも大きく変化することを知った。このような症例に遭遇したとき、病巣のどの部分が変化したのか、本来は既にsm浸潤を示していたのではないかなどの対応観察が重要であることを本号では指教している。そして逆に急

速に縮小した症例も呈示されている。食道粘膜癌が生検やヨード染色により予想もできないほど形態変化することは、食道専門医にとっては現在では常識となっている。しかし永井論文にみると、明らかにsm癌と診断できる症例の中にも短期間に縮小した症例が存在する事実からは、食道癌の発育進展に関しては今後、宿主側の詳細な検索が必要であることを痛感する。一方、アカラシアやBarrett食道、腐食性食道炎など長い経過の後に発癌してくる疾患、ならびに発癌リスクの高い生活環境も明らかとなってきた。本号は、食道粘膜癌を見つけようとするには絶対にヨード染色が不可欠であることを読者に訴えている。

胃と腸

11月号(第30巻・第12号) 予告

発売予定 11月25日
定価 2,060円(税込)

主題／大腸腺腫の診断と取り扱い

序 説	大腸腺腫の診断と取り扱い	群馬県立がんセンター	長 廻 紘
主 題	5 mm 以下の微小腺腫の診断と取り扱い—見つけ出しと取り扱い	旭川医大・3内 大阪医大・2内 神戸海星病院・消 久留米大・2内 早期胃癌検診協会 昭和大藤が丘病院・内 東京都がん検診センター 中目黒消化器クリニック 福岡大筑紫病院・病理 新潟大・1病理 大阪成人病センター・病理	斉藤 裕輔・他 平田 一郎・他 三戸岡英樹・他 鶴田 修・他 藤谷 幹浩・他 佐竹 儀治・他 西沢 護・他 田淵 正文・他 山田 豊・他 松田 圭二・他 鈴木 典子・他 正木 忠彦・他 安藤 正夫・他 魚住 淳・他
	5 mm 以下の微小腺腫の診断と取り扱い—微小腺腫の自然史	東京大がん検診センター	
	5 mm 以下の微小腺腫の診断と取り扱い—病理からみた微小腺腫	福岡大筑紫病院・病理 新潟大・1病理 大阪成人病センター・病理	
	大きな腺腫の取り扱いと経過・予後—外科の立場から	東大・1外	
	大きな腺腫の取り扱いと経過・予後—内科の立場から	仙台市医療センター・消	
主 題 研 究	腺腫と hyperplastic polyp の鑑別	国立がんセンター中央病院・放	

胃 と 腸 (第30巻 第11号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1995年10月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1995年年きめ予約購読料28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1995, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

(担当)小松原・竹中・江口・長谷川